

私たちは、 研究開発の情報革新 に取り組んでいます。

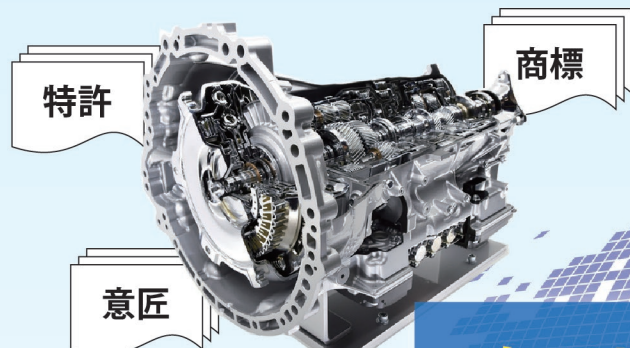
着想から実現へ —— for Innovation, Invention, Competition

R&D 情報ステーションIIC

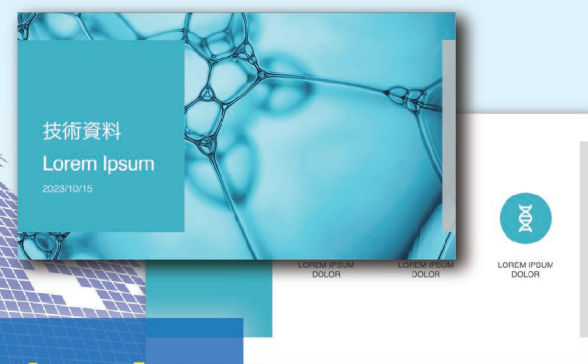
R&D 知財グループウェア
THE調査力AI

競争力維持・強化

特許・意匠・商標データ



社内技術資料データ



知財 DX (革新的な発明・事業の創造へ)

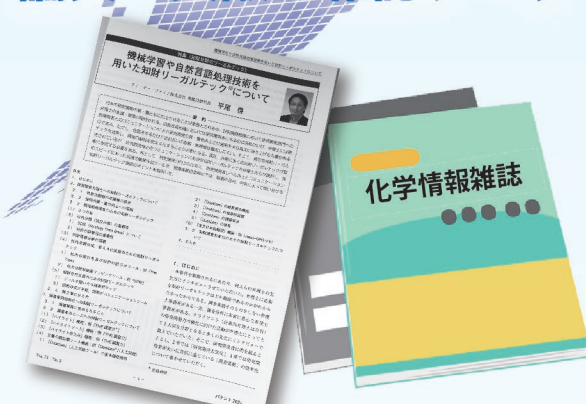
自社出願戦略データ

◎-A: 住生活のバリアフリー技術
◎-AA: 住宅設備・建築物
◎-AAA: 認定
◎-AAAA: 登録
◎-AAAAA: 特許
◎-AAAAA: 意匠
◎-AAAAA: 商標

特許	特許番号	発明者	出願日	公開日	権利期間
意匠	意匠番号	発明者	出願日	登録日	権利期間
商標	商標番号	出願者	出願日	登録日	権利期間



論文・文献・雑誌データ



「THE調査力AI」の導入を通じて、さまざまな企業の業務改革に併走してきましたが、道のりは決して平坦ではありませんでした。日本の開発力を甦らせる。過去以上に日本の研究・開発の現場を活性化させるという大きな理想を抱いて製品を開発したものの、その導入に際しては機能を適切に活用した効率化の段階で行き詰まることも多く、企業の導入担当者と膝を突き合わせて悩むこともしばしばでした。

第5章 理想は事業部や研究所単位で進めるDX
— 企業別・知財DXへの壁と挑戦

自社特許の情報を知財グループウェアで活用する
過去データも徐々に格納していく
業務タイトル機能の活用で社内特許調査を見える化する
Xメニューに拘束されない自由でユニバーサルな仕様
システムへの導入は企業風土の転換と同義
忘れてはならない業務効率化の目的

第4章 DXでリアルタイムの情報活用を実現する
— 革新的発明を生む開発現場の知財プラットフォームとは
段階的にDXを実現するために
最新のテクノロジーといかに付き合うか
必要なのは高度なAIでなく業務を補助する「機能」
情報を多媒体で管理することをやる
検索データベース毎の業務はやる
ノイズ特許に時間を掛けない
特許評価管理業務は知財グループウェア内で一元的に行う
世界中の特許を日本語で調査できるようにする
特許評価を見える化する
特許業務の進捗状況を見える化する
多種多様な特許情報の収集・整理を自動化して
手作業を極力なくす
他社動向・開発技術動向をリアルタイムで見える化する
特許マップはリアルタイム化する

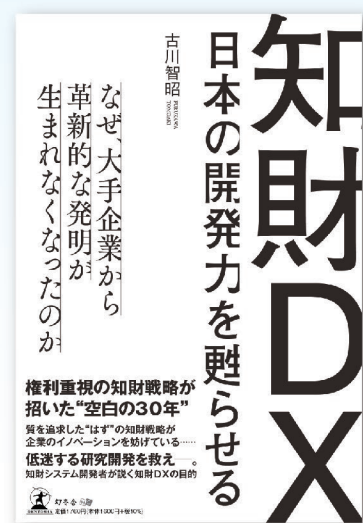
第3章 知的財産部門がもたらす研究開発へのしわ寄せ
— ムダだらけの特許調査に追われる技術者たち
DXでリアルタイムの情報活用を実現する
— 革新的発明を生む開発現場の知財プラットフォームとは
段階的にDXを実現するために
最新のテクノロジーといかに付き合うか
必要なのは高度なAIでなく業務を補助する「機能」
情報を多媒体で管理することをやる
検索データベース毎の業務はやる
ノイズ特許に時間を掛けない
特許評価管理業務は知財グループウェア内で一元的に行う
世界中の特許を日本語で調査できるようにする
特許評価を見える化する
特許業務の進捗状況を見える化する
多種多様な特許情報の収集・整理を自動化して
手作業を極力なくす
他社動向・開発技術動向をリアルタイムで見える化する
特許マップはリアルタイム化する

第2章 質を追求した「はず」の結果誤った知財戦略がもたらす
— イノベーションの停滞と知財部門のコストセンター化
第1章 なぜ、日本の開発力は低下したのか:
— 過去の資産にしがみつく知財経営の実態
第1章 なぜ、日本の開発力は低下したのか:
— 過去の資産にしがみつく知財経営の実態

新刊 4月28日発売決定!

出版 株式会社幻冬舎

「日本の開発力を甦らせる知財DX」 古川智昭著



(※発売時是一部内容の変更がある場合があります)

